

文芸コーナー

菊水短歌会

手に余る大きな西瓜育ちゆく
村にながなが生きたるわれよ
石垣の瞬の間に二つ三つ
笑みをあたふる紫らん花咲く
雪柳のあたり一面暮れのこり
枝をゆらすは雀か風か
玄関の扉の音の知らせてくれた
囲碁大会の勝ちし日負けし日
雨つづき伸び放題のネコジャラシ
でんでん虫の角ながながと
飛行機雲いく本も走る夏の空
うだる暑さにあの日が浮かぶ
やがて咲く自慢のテッセンのびてきて
紫・白と今年もたのしみ

東 左千子
池田たかお
坂口志げ子
石山 幸子
阪野 章子
荒木 智子
坂本 竹子

かなしき原俳句会

遅れたる帰郷詫びつつ墓洗ふ
逆縁に残りし姉や昼の虫
雨音にいつしか消えし虫時雨

明
しん子
淑乃

菊水俳句会

吾亦紅矢印のみの道標
戦争と命の法話秋彼岸
台風のそれをを念じ納屋整理
米中露朝鮮半島終戦忌
夢の中まで豊作の稲踊る
一株に二千花咲く稲穂かな

康 子
弘 子
淑 一
誠 一
良 一
貞 子

肥後狂句

高校の師の文にあり姫女苑
赤トンボ一人の窓にそつと来る
母逝けりしかも大らか秋の日に
えのこ草亡き愛犬の眼裏に
仏壇の母の姿に吾亦紅
8月25日に、宮中ミスエさんがお亡くなりになりました。
菊水俳句会の会員でした。

池田 松子
中山ミサト
宮中 康雄
永田 紘彦
原 かよ子

引きとめて 言うしこ言うてはつてえた
引きとめて 泥付野菜畑から
めかし込み 我が齢忘れ張り合わす
めかし込み 夜の仕事と間違われ
めかし込み 玉三郎の八千代座へ
めかし込み 嬢もやつぱり女です
付いとらん 強豪校と初回戦
付いとらん 旅行の度に熱が出る

高木せいや
池田 茜
福永すみれ
後藤 撫子
井上りんどう
石原かわせみ
二瀬 桔梗
庄山 道草
瀬上 歌子

人権の窓 32

ハンセン病問題(上)

私が初めてハンセン病問題と出会ったのは、平成7年、熊本県就学前同和教育研究大会で、菊池恵楓園の園長と入所者の方による講演を聞いた時でした。園長は、「ハンセン病は極めて感染力が弱く、全国の療養所内での感染者は一人もいません。また、薬で完治する病気、国の隔離政策は誤りです。偏見や差別は無知から生まれます。人間が作った差別であり、私たちが無くせぬはずがありません」と、ハンセン病の啓発活動に立ち上がった理由を話されました。続いて、入所者の方が、簡単に治るハンセン病にかかっただけで、差別を受け、療養所に閉じ込められてきた悔しさとその中で生き抜いてきた話をされ、「らい予防法を廃止してほしい。私たちのことを正しく知ってください」と訴えられました。

その翌年の平成8年、「らい予防法」は廃止されました。その二年後の平成10年の年明けに、荒尾の解放子ども会で菊池恵楓園を初めて訪ねました。園で私たちを迎えていただいたのは、入所者自治会の役員であった斉藤さんでした。斉藤さんは私たちを研修室に案内され、自身自身のことを話されました。

11歳の時に、病気の治療のために親に連れられて入所し、もう63歳であるこ

和水町人権教育指導員 緒方 正雄
☎0968・86・2022
図中央公民館

「菊池恵楓園を訪ねて」

と。所持金は入所時に園内だけでしか使えない園券に変えさせられたこと。宗教は何にするかを聞かれ、家族に迷惑がからぬように偽名を使わされたこと。死体解剖承諾書に署名させられるなど、療養所は二度と退所できない所である事が分かり、家族や故郷と引き離された怒りと絶望感で何日も眠れなかったこと。完治しても退所できず、親の死に目にも会えなかったこと。そして最後に、「らい予防法」がなくなり、世界中のどこにでも自由に行けるようになりましたが、妹の嫁ぎ先には行けません。私は死んだことになっています。一番会いたい妹の所には行けないのです」との言葉に、胸が張り裂けそうになりました。

その後、広大な敷地内にある施設を見学しました。何でも揃う大きな店、床屋、郵便局、病院刑務所、斎場、火葬場跡、引き取り手のない遺骨が並ぶ納骨堂、監禁室、療養所を取り囲むコンクリートの高い壁、その全てが、入所者にとって終生の監禁生活であることの意味していました。

笑顔で見送られる斉藤さんに、「これから本当の事を伝えていきます。ぜひ荒尾に遊びに来てください」と、お礼の言葉と又の再会を約束して、恵楓園を後にしました。

図書室 本紹介

中央公民館 図書室だより

年金だけでも暮らせませす

著者：荻原 博子、株式会社・PHP新書



老後の生活には2,000万～3,000万円必要という報道に、不安を感じられた方も多いのではないのでしょうか？本書では、老後を年金だけで暮らすための情報とノウハウを伝授してくれます。「人生100年時代」を、心にゆとりを持って生活できるといいですね。

傘寿まり子

著者：おざわ ゆき、株式会社・講談社



主人公の幸田まり子は、ベテラン作家。息子夫婦・孫夫婦と同居していたが、傘寿（80歳）にして、家を出て「独立」することになる。…高齢者問題を描く本書は、現代的なリアリティがあり、現代社会の問題を凝縮しています。特に40代から70代の女性に支持されている作品です。

「親子で綴る人権標語」

優秀作品 を紹介します！

社会教育課では、人権意識の高揚を図るため、毎年度町内中学生親子を対象に人権標語の募集を行っています。

三加和中学校・菊水中学校（応募総数172点）から推薦された作品の中から、優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

三加和中学校

考えて 言われる重さと言っ軽さ

1年生 鍋島 彩里さん 親子
2年生 平岡 誠心さん 親子

「ありがとう」人をつなげる いい言葉
言っでらん いつでも聞くよ 君の声

3年生 池田 幸実さん 親子

菊水中学校

つなごうよ 私とみんなで 笑顔のたすき

1年生 松村 至恩さん 親子

伝えよう 心のために S O S

2年生 柳原 拓巳さん 親子

持ちたいな 言葉で伝える 思いやり

3年生 西村 心さん 親子